

湘南♥風と星物語

東大二宮果樹園跡地の

魅力



東大二宮果樹園は 1926(大正 15)年に開園し、2008(平成 20)年に閉園まで 82 年間この地にありました。東京帝国大学が二宮のこの地に果樹園の土地を求めたのは、東京に近く、みかんの経済的栽培が可能であるという点が考慮されたようです。

私は弟橘媛(オトタチバナヒメ)。

私は、吾妻山の伝説があるように二宮町にも、名前に「橘」が入っているように、みかんにも縁が深いのです。「湘南♥風と星物語～東大二宮果樹園跡地の魅力」の案内役を務めます。



東大二宮果樹園の航空写真

弟橘媛(オトタチバナヒメ)です。
この展示の案内役を務めます。



未来に伝えたい写真展 No.1

魅力1

相模湾とのつながり



私はこの辺に住んでいたとも言われています。夫の日本武尊(ヤマトタケル)が東征の折り、荒れた海に入水し、波を鎮め、夫の難を救いました。その時櫛や袖がこの海岸に打ち上げられ、袖ヶ浦海岸と名付けられ、その櫛を山頂に埋めて祀ったのが吾妻神社の創建だと言われています。

この東大二宮果樹園跡地のみかん畑だった所から展望できる相模湾は、プレート運動による全国で3つしかない深海を抱える特異な湾の一つです。

二宮町の地形は、古代にその海底が隆起して形成されました。海底であったことは、隣地の鶴巻田横穴墓群で地層に貝化石が多数見られ、わかります。

プレート運動でできた特異な湾の相模湾。古代に海底が隆起してきた二宮。

この跡地の隣の鶴巻田横穴の地層を見るとこの辺が海底であることがわかります。

私もこの跡地も相模湾と関係深く、つながっています。





魅力2 貴重な遺物が出土



この場所には、多くの時代の遺跡が残っています。
金メッキされたものや瑪瑙製勾玉などの古墳時代の遺物からは、その時代の有力者がこの地に来ていたことがわかります。



東大二宮果樹園跡地は、全国でも稀なくらい多くの時代の遺跡が残っています。

その中でも古墳時代の多数の横穴墓があった**諏訪脇横穴墓群**からは貴重な遺物が出土されています。

7世紀後半～8世紀後半の約100年間に、横穴墓が53基確認され、大和朝廷の皇族の下くらいの有力者の存在を示す金メッキ、メノウ、イモガイの加工品が出土しています。

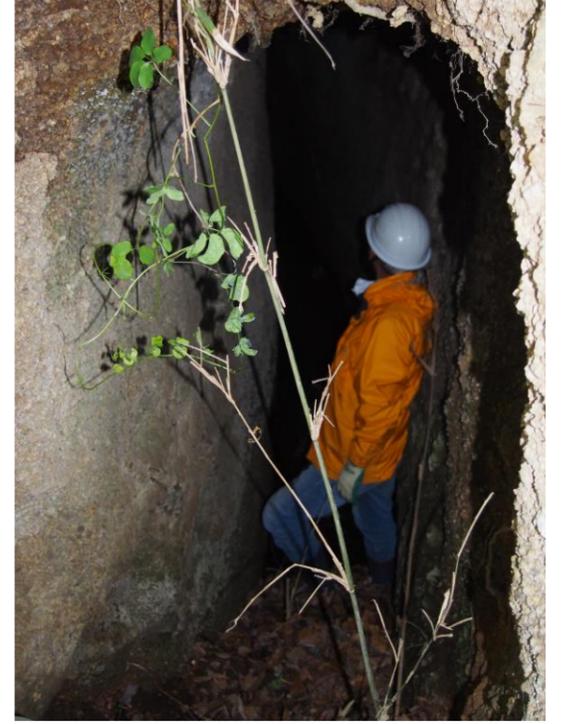
諏訪脇横穴墓群は東大でも発掘調査を行い、小田原厚木道路の建設が決まると東大教授から保存の声もあがったそうです。

埋蔵物は、現在東大と横須賀自然・人文博物館に収蔵されています。学芸員さんのお話によると、「多数の横穴墓から出土された埋蔵物は、当時の日本の様々な地の特色があり、現在の国際都市のような地域ではなかったか」ということでした。



魅力3

古代から息づく歴史



古代の遺跡を利用して隣の数地とつながっているんだわ。



諏訪脇横穴墓は、小田原厚木道路の建設でほとんどが埋められてしまいましたが、現存しているものもあります。

学生宿舎付近の斜面に残っている横穴墓は、隣地の鶴巻田横穴墓とつながっていて、戦争末期には陣地が作られました。

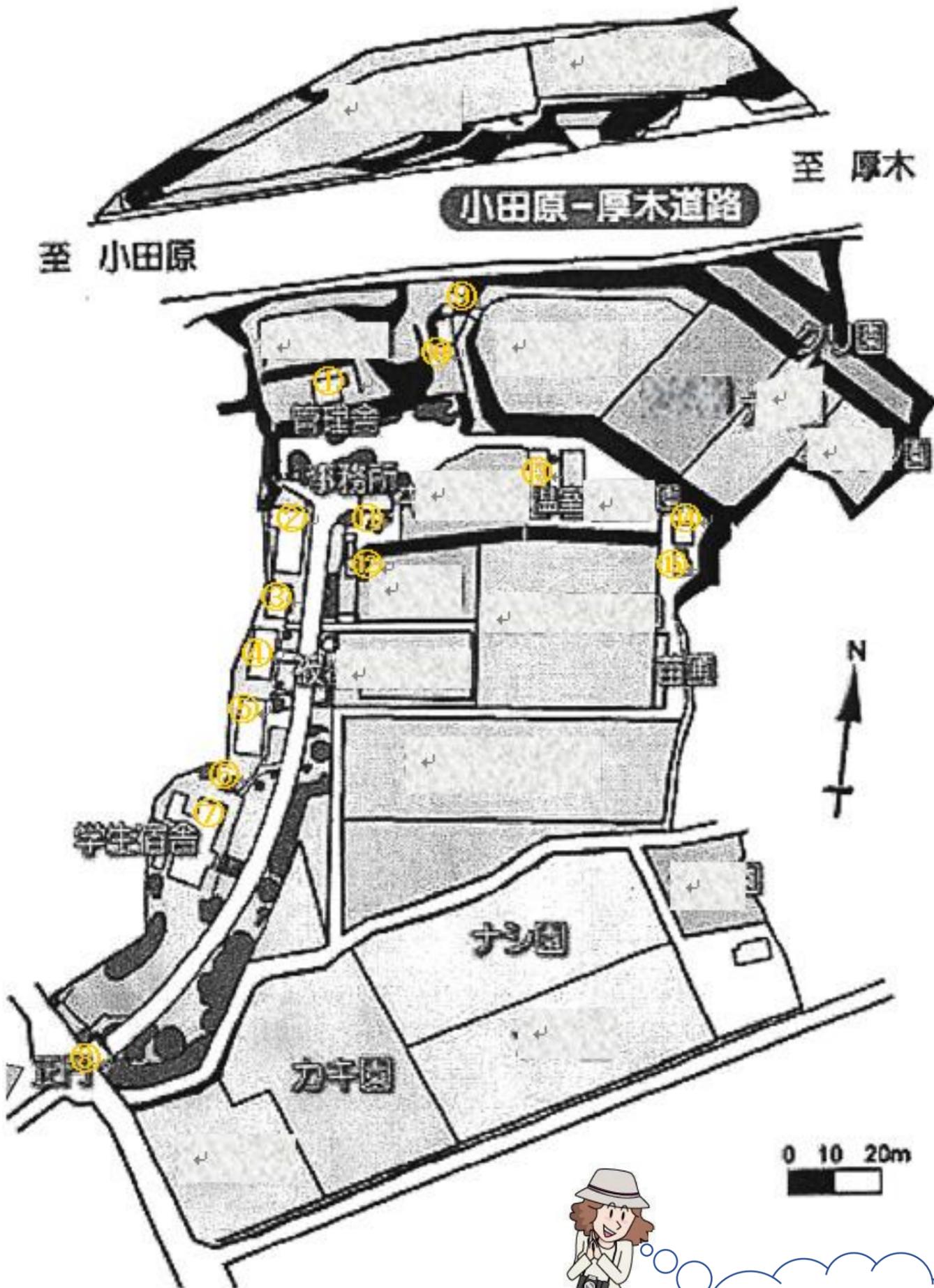
他の鶴巻田横穴墓には、現在ワインカーブとして使われているものもあります。

その丘の上には月待ち講の石碑もあり、素敵な気の流れも感じられるようです。



魅力4

大正・昭和の建物が 多数現存



- ① 管理舎
- ② 生産物加工室
- ③ 収納舎
- ④ 屋内作業場
- ⑤ 第一号倉庫
- ⑥ 外便所
- ⑦ 学生宿舎
- ⑧ 正門
- ⑨ 第一号果物貯蔵庫
- ⑩ 第二号果物貯蔵庫
- ⑪ 実験室
- ⑫ 薬剤散布ステーション
- ⑬ 温室
- ⑭ 堆肥舎
- ⑮ 肥料舎

<その他の施設>

- ケーブルカー発着所
- 事務所
- 屋外作業所
- 薬品庫
- ビニールハウス



20個の建物が残っているのね。



① 管理舎

1926(大正 15)年 11 月竣工
木造 1 階建て
建物面積 66 m²(延 66 m²)



② 生産物加工室

1935(昭和 10)年 10 月竣工
木造 1 階建て
建物面積 133 m²(延 133 m²)



③ 収納舎

1938(昭和 13)年 1 月竣工
木造 1 階建て
建物面積 59 m²(延 59 m²)



④ 屋内作業場

1981(昭和 56)年 1 月竣工
鉄骨造 1 階建て
建物面積 102 m²(延 102 m²)



大正時代の洋館、著名な建築家の内田祥三元東大総長が監修したと考えられる建物、もう造られることはない立派な門など様々な様式の建物があるのね

⑤ 第一号倉庫

1931(昭和 6)年 10 月竣工
木造 1 階建て
建物面積 99 m²(延 99 m²)



⑥ 外便所

1988(昭和 63)年 3 月竣工
鉄骨造 1 階建て
建物面積 9 m²(延 9 m²)



未来に伝えたい写真展 No.6

⑦ 学生宿舎

1934(昭和 9)年 3 月竣工
木造 2 階建て
建物面積 233 m²(延 419 m²)



⑧ 正門

1934(昭和9)年12月竣工
鉄筋コンクリート造



⑨ 一号果物貯蔵庫

1937(昭和12)年1月竣工
鉄骨造1階建て 建物面積8㎡(延8㎡)



⑩ 第二号果物貯蔵庫

1937(昭和12)年1月竣工
木造1階建て
建物面積24㎡(延24㎡)



⑪ 実験室

1938(昭和13)年2月竣工
木造1階建て
建物面積39㎡(延39㎡)



⑫ 薬剤散布ステーション

1959(昭和34)年1月竣工
木造1階建て
建物面積14㎡(延14㎡)



⑬ 温室

1967(昭和42)年3月竣工
鉄骨造1階建て
建物面積129㎡(延129㎡)



⑭ 堆肥舎

1937(昭和12)年10月竣工
木造1階建て
建物面積33㎡(延33㎡)



⑮ 肥料舎

1921(大正10)年3月竣工
木造1階建て
建物面積33㎡(延33㎡)

<その他の施設>

ケーブルカー発着所



事務所



屋外作業所



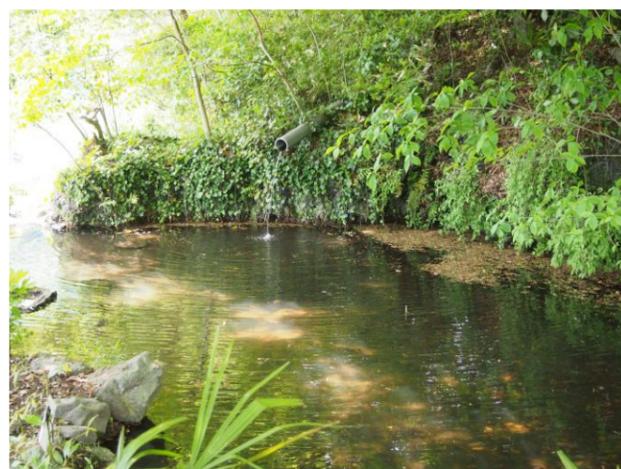
薬品庫



ビニールハウス

わあ！建物が沢山あるわ。





東大二宮果樹園は、元は園田孝吉男爵の別荘と梨園で、ここで大正4年67歳の時に療養生活を始めました。

現在、場所を特定することはできませんが、肥料舎は、その当時のものです。

その当時建てられたと言われているスリークオーターガラス温室が昭和30年代に撮影された写真では管理舎の下にあり、この辺が庭園だったかと推測されます。

このことから、現存する池は園田孝吉男爵の別荘庭園の一部だったかもしれません。

園田幸吉氏は、果樹園に「梨」を植え、県の農産技師を顧問に迎えて、自らも農作業をしたそうです。

高村幸太郎氏は、園田氏の胸像づくりのために二宮に通い、特に印象深かった仕事だったと回顧録に記しています。



未来に伝えたい写真展 No.8



魅力6 内田元東大総長が 監修したとされる建物 が現存

内田祥三元東大総長は文化勲章を授与された日本を代表する建築家です。

大学教授を続けながら営繕課長を兼任し、東大の建物を建設していました。

ここには建物の建築年が営繕課長に就任していた時期の建物があります。

このことから、内田祥三元東大総長が監修した建物が現存していると推定されます。

学生宿舎(1934(昭和9)年3月竣工)、
生産物加工室(1935(昭和10)年10月竣工)、
収納舎(1938(昭和13)年1月竣工)の3棟です。



学生宿舎 1934(昭和9)年3月竣工



生産物加工室 1935(昭和 10)年 10 月竣工



収納舎 1938(昭和 13)年 1月竣工



内部が素敵♥



未来に伝えたい写真展 No.11



魅力7 東京帝国大学時代の 歴史的建造物と 果樹園がセット現存

東京帝国大学時代の歴史的建造物と果樹園がセット現存し、産学遺跡としての価値が大きいと思います。

管理舎は大正時代の歴史的建造物。当時としては観音開きのルーパー付きでモダンな洋館です。

生産物加工室は越屋根付の2つの切妻がTの字型に配置された独創的な農場建物。ここで生産されていたイチジクの缶詰は宮中に献上され、昭和天皇の好物だったそうです。

梨園、柿園は現存し、園内には梨、柿、キウイ、栗、フェイジョア、グミ、カラタチの木なども残っています。

